

歴史のまち 嵩山

全ての時代の歴史遺構を見ることができる町“嵩山”その一部をご紹介します。

①蛇穴(じゃあな)：縄文時代

国の史跡に指定されている縄文文化遺跡で天然の石灰洞穴です。郷土史によると、昔、原始人が住んでいたといわれています。また、長篠の戦いで負けた武田勝頼の軍資金が埋蔵され、今でも武者が守っているともいわれています。嵩山蛇穴遺跡は、浅間山の山腹、標高約140mの位置に所在し、この地区は、有数の石灰岩地帯で、長年の風雨による浸食作用によって各所に洞窟が形成されました。



②浅間神社(せんげんじんじや)：奈良時代～

浅間神社は、天平勝宝2年(奈良時代)に富士山のふもとにある浅間神社と同時に作られました。由来は、富士社とともに、駿河(今の静岡県)富士浅間神社から勧請したと伝えられ、現存する棟札の中で最も古いものは、享保7年12月のものである。それには、奉修浅間大菩薩とあり、享保13年9月のものには、原川浅間、寛政12年6月29日のものは、原川浅間宮となっています。そして、明治維新の際、原川社と改めた。明治41年2月15日同字鎮座大山浅間社祭神大山の祇の命を合祀しました。浅間神社の三社には、それぞれ神様がいます。



③正宗寺(しょうじゅうじ)：鎌倉時代～

中国の高僧が、正宗寺(しょうじゅうじ)に足をとめた。その高僧は、ここが嵩山(すうざん)の景色によく似ていることから、ここを嵩山(すせ)と名づけ、山中に寺を建てた。正宗寺が建てられたのは、鎌倉時代といわれています。正宗寺の名前の意味は、お坊さんが学んだ寺の名前、天目山獅子正宗禅寺(てんもくざんしししょうじゅうぜんじ)に由来すると伝えられている。寺は、何度も火災にあってしまいましたが、そのたびに再建され、今でもたくさんの文化財が保管されています。



④姫街道(ひめかいどう)：江戸時代～

姫街道(姫街道)とは、東海道にある新居の関所(取り調べをする所)を通るのをいやがる女性たちが通った道で、東海道の見附～三ヶ日～嵩山～御油を通る東海道の脇往還。

なぜ、こう呼ばれるようになったかという理由は、江戸時代に“入り鉄砲に出女”といって、大名の妻や子が江戸から出ていくことと、鉄砲を持ちこまれることをおそれて厳しく調べられました。姫街道は、本坂通(ほんざかどおり)とも言います。関所での取締りの厳しい東海道ではなく、本坂通りを通ったことから“姫街道”と呼ばれるようになった。本坂通には、茶屋や宿など、色々な店がたくさんあって、賑わっていました。

現在、姫街道は国道362号線となり、地域の大切な交通路として利用されています。

